

犬皮膚炎に対する土壌由来の新規混合菌発酵産物給餌による改善効果

西井丈博¹、○高木道浩²、千田廉²、梅瀬英夫³
(1 阿佐ヶ谷動物病院、2 神戸大農学部、3 ㈱リタニアルバイオサイエンス)

【背景】近年、ヒトと同様に犬における皮膚疾患やアトピー性皮膚炎などが多数見られるようになった。しかし、その有効な治療方法は確立されていない。皮膚炎を呈する犬の飼主は、副作用が少ない効果的な治療を望んでいる。ペットフードやサプリメント市場では動物の健康面を考慮し、免疫活性をうたう飼料は見られるが、皮膚炎の改善に有効なものは少ない。

【目的】今回、我々は土壌由来混合菌の培養液がマウス脾細胞を用いた *in vitro* での免疫活性実験において、その活性化が認められた。この培養液より作製した飼料を、重度から軽度に皮膚炎を呈する犬へ給餌し、その症状改善について検討した。

【材料と方法】動物病院へ通院する、全身あるいは局所に皮膚炎を呈している 5 頭の犬 (表 1) に混合菌培養液を粉末状にしたものを、体重当り一万分の一相当 8 週間連続給餌した。経時的に血液性状 (RBC、WBC、BUN、GPT や GOT など) および病変を肉眼的に観察し、改善効果についてスコア化を試み評価した。

表 1 犬種とそれらの皮膚症状

種	性別	年齢	症状
A キャバリア	雌	10	全身に皮膚疾患を呈している
B ブルテリア	雌 (避妊済)	6	全身に皮膚疾患を呈している
C ヨークシャー	雌	2	背部、腹部、四肢などに病変が限局、散在
D キャバリア	雄 (去勢済)	4	背部、腹部、四肢などに病変が限局、散在
E ビーグル	雄 (去勢済)	9	背部、腹部、四肢などに病変が限局、散在

【結果】給餌後 1 - 2 週で白血球が一過性に低下するが、その後増加、それと共に症状が改善する傾向が見られた。しかし、血液の生化学的的正常には変化は認められなかった。重度の皮膚炎を呈する犬では発毛が認められた。また、全ての犬において掻痒の抑制が見られた (表 2)。

表 2 各個体の改善効果に関する臨床評価

	掻痒の抑制	紅斑の改善	脱毛の改善	鱗屑の改善	丘疹の改善
A	3	3	4	3	3
B	3	2	4	3	3
C	2	1	1	3	1
D	2	1	1	1	1
E	2	1	1	2	1
平均値と標準誤差	2.4 ± 0.2	1.6 ± 0.4	2.2 ± 0.7	2.4 ± 0.4	1.8 ± 0.5
スコア評価基準	4 : 著効	3 : 有効	2 : やや有効	1 : 変化なし	0 : 悪化

【考察】いずれの犬において症状の悪化は見られず、特に全身性に紅斑、脱毛、掻痒等がある A キャバリエと B ブルテリアの脱毛部では発毛が認められた。これらは長期給餌によりさらに改善する可能性が考えられる。また、残りの 3 頭においても投与初期に症状の改善が見られたことから、その投与量、回数、時期、既往症等を検討していくことにより、犬の皮膚疾患における補助剤として十分に期待できる。

* 結果の追加 : サイトカインの発現を確認したところ IFN- γ の上昇と TGF- β の減少が確認された。